



IEEE International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication Systems 2017

NOVEMBER 6-9, 2017, XIAMEN, CHINA

International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication System 2017

参加報告書

群馬大学大学院理工学専攻
電子情報・数理教育プログラム
小林研究室 修士1年 小澤祐喜

学会名称

IEEE International Symposium on International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication System (ISPACS) 2017

開催期間

November 6-9, 2017

開催地

Wanda Realm Xiamen North Bay Hotel, Xiamen, China



投稿論文

[1]“STUDY OF JITTER GENERATORS FOR HIGH-SPEED I/O INTERFACE JITTER TOLERANCE TESTING” Yuki Ozawa, Takuya Arafune, Nobukazu Tsukiji, Haruo Kobayashi, Ryoji Shiota,

[2]“SAR TDC ARCHITECTURE FOR ONE-SHOT TIMING MEASUREMENT”

Yuki Ozawa, Takashi Ida, Shotaro Sakurai, Richen Jiang, Rino Takahashi, Haruo Kobayashi, Ryoji Shiota

旅程

11/6 成田国際空港 ⇒ 中国 厦門高崎国際空港

11/7 学会参加

11/8 学会参加(発表)

11/9 学会参加

11/10 観光

11/11 中国 厦門高崎国際空港 ⇒ 成田国際空港



ISPACS について

ISPACS は IEEE 等が主催する信号処理や通信システムを扱う学会である。過去にはインドネシアやタイ等のアジア圏で開催されている。アジア(今回は特に中国)からの参加者が殆どであった。

学会参加報告

私は Analog Mixed-signal and RF Circuits & Systems というセッションで発表した。座長からの質問は研究分野が異なることもあり、日本語で聞かれても応答に困る内容であった。発表後に議論の場を頂き、質問内容は解決しコメントを頂けた。難しく感じたことは、必ずしも質問は 5W1H ではされないということである。質問者が長く話した後、その話の中から「聞きたい要点は何か」を考えることに苦労した。最初は質問者の質問と私の回答が噛み合わず、何回か会話するうちにお互いの意図が分かった。海外の他の発表者の方も英語が得意な方は少数であるという印象を持った。



小澤の発表



学会の Banquet

とてもおいしい中国料理だった



学会会場となったホテルのバイキング

水が見当たらなかったのでビールを代わりに飲んでみた



学会の Social Event

演劇の内容は分からなかったが、曲芸に魅せられた

厦門観光

学会での発表も終わり、留学生主導で厦門を観光した。現地では中国人が殆どであった。観光して感じたのは、外国人が来ることを想定している場所以外は殆ど英語が通じないということである。1(ワン)、2(ツー)、3(スリー)も通じないことがあり、留学生が居なかったら観光は厳しかったと感じた。



学会会場周辺からバスで船着場まで向かう(2元)



フェリーで目的地の島まで向かう



一見、妙な組み合わせだが意外とじっくりくる。



沖縄よりは江ノ島に雰囲気に近いと感じた。



南国風の草木が生えている中国らしからぬ風景。



実際のところ、とてもおいしい。



天気にも恵まれ集合写真のベストショットが撮れた。(この為だけに三脚を持参した甲斐があった)

謝辞

今回は海外の国際学会へ同期全員で参加・発表するという他では得られない体験・経験をすることが出来ました。このような機会を与えて頂いた小林先生、ホテルやタクシーの手配など現地でも多大なるご支援を賜りました厦門理工学院 林海軍先生、付き添いご指導を賜りました小堀先生、渡航に関しご支援を賜りました石川さん、そして先導し案内して下さいました中国人留学生に深く感謝致します。

